

令和5年度 第2回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和5年10月27日（金）午前10時から

場所 防府市役所1号館3階南北会議室

出席委員 10名

欠席委員 4名

事務局 8名

1 開会挨拶

物価の上昇に賃金の上昇が追いつかず、中小企業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。

先般の会議では、委員の皆様から2024年問題、また、物価高騰で厳しい状況にあることを伺った。これに対し、9月補正予算において2024年問題に対応する形でトラック事業者等の運転手確保や市内事業者の生産性向上に対する取り組みを支援するための予算を計上した。

国は経済対策のための補正予算をこれから閣議決定されようとしており、市としてもこれを最大限に生かし、対策を講じていく。そうした中で、この会議での委員の皆様のお意見を参考にさせていただき、12月補正予算、当初予算にしっかりと対応していきたい。

これからの中小企業の振興のために、様々な御意見、御協力をお願い申し上げます。

【事務局】

○ 会議成立の報告

14名の委員中、10名の出席で、防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることを報告。

○ 会議の公開

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により、本日の中小企業振興会議は公開とする旨を報告。

【会長】

新型コロナウイルス感染症は落ち着いてきたが、物価高騰により中小企業は大変大きな影響を受けている。

労働市場は人材不足が逼迫しており、人に頼らない経営やDXによる仕事の効率化、企業のアントレプレナーシップ（リスクを恐れずに積極的に取り組んでいく姿勢）など生産性向上の取組を効率的に行っていくことが非常に重要なテーマとなっている。

また、本日は、ハローワーク防府から求人・求職状況等に関する資料を提供いただいているのでこれも参考にして防府市の中小企業振興のために必要な施策について、ご意見を賜り

たい。

2 商工振興施策について

【事務局】

令和5年度主な中小企業振興施策の実施状況、9月補正予算に計上した「市内生産性向上設備等導入緊急支援事業補助金」、「運転手確保対策事業補助金」について説明。

～ 資料1、「市内生産性向上設備等導入緊急支援事業補助金チラシ」、「運転手確保対策事業補助金チラシ」～

【A委員】

防府市の求人・求職状況等について説明。

8月のハローワーク防府の有効求人倍率は1.19倍で、前月と比べ0.01ポイント低下、また、前年同月と比べ0.22ポイント低下している。フルタイムの有効求人倍率は1.23倍、パートタイムの有効求人倍率は0.94倍。職種別の求人・求職バランスをみると、事務職や運搬・清掃等はフルタイム・パートタイムとも求職者数に比べて求人数が少ないが、建設・土木や医療、福祉、保安、運輸については有効求人倍率が高い。

山口県内の同月の有効求人倍率は、1.49倍で前月に比べて0.01ポイント低下している。また、県内の新規求人数は、比較的高い水準で推移しており、県内企業の手不足感が高まっている状況にある。

前述のハローワーク防府の有効求人倍率は、ハローワーク防府で受け付けた求人とハローワーク防府で求職を申し込んでいる人の数値であるが、参考地として就業地別の求人数を用いた有効求人倍率でみると、防府は1.75倍、県全体の就業地別有効求人倍率1.69倍で、県全体の数値を若干上回っており、公表している数値以上に人手不足感がある状況だと思う。

また、令和6年3月新規高卒予定者の県内の公共職業安定所で受理した求人数は5,972人で、前年同期と比べ1.9%増加しているが、一方で、就職希望者数は2,416人で前年同期と比べ6.0%減少している。

意見等

【B委員】

「創業支援モデル事業」で一定の成果がでていると思うが、地方は、創業者等の起業により活性化すると思うので、もう一步、レベルアップしたものをやっていただきたい。

また、DXが進み、事務の職がないという状況はこれからもっと顕著になってくると思う。事務の仕事を希望するが、事務の仕事が少ない中で、仕事はしないといけないという方は、県外に出られているのか、職種転換などをされているのか。

【A委員】

求職者の方に、求人・求職状況をお示しし、事務職に固執していると就職に結びつかないケースがあることの説明等を行っている。とにかく事務の仕事を探したいということで県外での就職活動をされる方もいらっしゃるし、朝から夕方までで比較的土・日・祝日が休みと

いった就業条件から事務職を希望されている場合は、軽作業的にできる他の職種を提案し、条件的に合えば応募される方もいらっしゃる。

ただ、パートタイム希望の方や就職を急いでない方は条件が合うものが出るまで応募されない場合もある。

【C委員】

求人・求職バランスシートを見ると、建設、介護、保険サービス系の人手が足りていないようだが、通年そのような状況なのか。輸送・機械運転の職業については、これらの職種に比べると人手は足りているように見える。

【A委員】

建設業や、介護職は常に人手が足りていない状況。運送業については、燃料費の高騰等もあり、少し求人を抑えるといったことがあったようで少し減って見えるのかもしれないが、傾向としては、ずっと有効求人倍率が高い職種である。

また、ハローワークで仕事を探されている方には有資格者が少なく、建設業で資格が必要な求人が出て、マッチする人材がなかなかいないという現状もある。

【D委員】

人手不足の状況が続いており、ハローワークを利用させていただいているが、応募がない状況。他社に聞いてみると、ハローワークの利用は少なくなっており、民間を活用する傾向が強い。ただ、民間の求人サイト等に何カ月も掲載するとなると非常に高い。

【会長】

先ほどA委員が言われたように、資格一つ持っていればすぐにマッチできるところがあるのでできていない状況があるのであれば、そこに向けてどのように効果的な施策を打つか。9月補正で計上された2つの施策を効果的なものとするためのご意見をいただきたい。

【E委員】

私は、今、親の介護をしており、親の付き添い等もあり、日雇いのような形で仕事をしている。介護施設への入所費用は安くないので、家で親を看ながら働いている。

介護が終わった時に、そこから就職ができるのか不安であり、私のように家で介護をしている人を5人ぐらい集めてチームを作って1人の人として見てもらうといった働き方ができると嬉しい。

ハローワーク等で資格取得の支援があるが、毎日行かなければいけないと応募できない。隙間時間をちょっとずつ持っている人を集めて雇用してもらえると嬉しい。

【会長】

仕事がどんどんシステム化されていき、テンプレートに基づいてできるようにすれば、誰でも同じようなことができいく。

そうするとE委員がおっしゃられたように、特定の時間だけ仕事ができるという人達を企業が有効に活用できる可能性が出てくる。システムが最低限のクオリティは担保していくの

で、今までであれば正社員でなければいけなかった仕事もどんどんこのやり方になっていく。

また、介護後にこういうことができるよという人達を対象にしたリスキリングプログラムのようなものが充実してくるとそこから新たに労働市場に参画していただけるようになる。

【D委員】

隙間時間に対応してくれる人材を調べたことがあるが、大手の企業の方が夜や土日や休日にされている。ただ、遠いと不便なところがあり、近くにそういった方がいらっしゃれば活用したい。ある程度のスキルがあればそういったことができる。最近ではオンラインでもできるので、そういった方が増えてくるとよい。

【F委員】

親が高齢になり、障害者の妹の就労先を探すため、現在グループホームで仕事をしているが、落ち着いたら自分のやりたいことに舵を取っていきたい。何かできることを一緒にできる人とチームになって取り組んでいきたいと思う。

【会長】

現在仕事に就かれてない方も働き方によっては、労働市場に参加できる。また現在何らかのことで、参加できていないが、将来は労働参加できるし、それをしたいという方が潜在的にたくさんいる。

これに対して、企業側はどういう働き方を用意するのか。多様化が進んできていると思うが、これをさらに推し進めていく。このときにITや設備投資が必要なのでここに対して行政の方でバックアップしていくというところにニーズがあると思う。

また、IT化が進むと、当然職を求める求職者の方にもある一定の知識なり技術なりが求められてくるので簡単に学べる環境を用意していくことやリスキリングが非常に重要ではないか。

【G委員】

販売職においては、ハローワークにお願いしても1年に一件も応募がないというのは、ざらにある話。新卒の高校生の多くは大手企業を選ばれるので、入ってこない。予備軍というか、他の職種にうまく回せる人材はいるのか。

【A委員】

今、ハローワークを利用する若い方が少し減っている傾向にある。先ほど民間の紹介事業者の話も出たが、若い人はスマホアプリなどを使こうことにも慣れている。ハローワークのシステムは、国の予算がつかなければ改変できないため、俊敏さに欠けるという面がある。そうしている間に民間はスマホだけで簡単に登録も、応募もできるものを作っており、そちらに流れていっている若い方もいる。

販売や営業系の仕事を希望される方ももちろんいるが、少数というか、傾向としては少ない

イメージがある。

事務職と販売職では、休日がシフト制であったり就業時間も遅いケースも多く、働き方が大きく異なるので、あまりにかけ離れていると事務職を希望されている方が販売職に職種転換しにくい。働き方で優先したい条件の折り合いがつくところに動いていくというところだと思う。

求職者層でいうと、現在、パートタイムを希望される 65 歳以上の方がかなり増えており、70 歳を超えている方も多いが、応募できるところが少ない状況がある。

【会長】

高齢化社会だから、企業の方も高齢者の力を結集して働いてもらうようにすれば人手不足も解消する。

単に生産性向上のために機械を入れるだけではなく、働いていただくための方法や雇用管理の在り方というところもすべて見直していくことが必要だと思う。特に一番早いのは、高齢者を積極的に雇用していくということをやっていくことだと思う。

【G委員】

現在、商店街では、厳しいながらも生き残っているところもあるが、中にはショッピングセンターに出店したりしている店舗も結構ある。これらが、人手がなく、高齢の店主がなんとか一人でやっているような状況になっていて限界を迎えている。

マッチングが難しいという話もあったが、求人方法の支援などがなければもう撤退していただくだけで、どんどん店舗がなくなっていく状況にある。

【会長】

ダイレクトな手法ではないが、M&Aと事業承継も考えていかざるを得ない状況が起こっていると思う。

次に、物価高騰への対応、特に賃金の引き上げ当について皆さんの意見を伺いたい。

意見等

【H委員】

今年度、大企業が賃上げをするというニュースが非常に相次いでいるが、中小企業においては、賃上げにほとんどついていけない状況で、厳しい状態にある。

インボイス制度、来年には電子帳簿保存制度なども始まり、益々経費がかかるという先行きを含めると、まだまだ厳しい状況が続くのではないかと思う。

現在も補助金等の支援があるが、今後国の経済対策が予定されているので、適切な経済対策を行っていただきたい。

【I委員】

県内の事業所にお話しを伺ったときに、価格転嫁は難しい、同じくして10月1日から未曾有の賃上げということで最低賃金が928円になったとことを受けて、非常に先行き不安で

あるという意見が多かった。

山口県が新たに賃金引上げや柔軟な働き方などの制度導入等に取り組む事業者を対象に奨励金を支給されている。就業規則の整備や労働法の改正に準拠した労働規則の整備など内部体制を強化するとともに賃上げにも対応でき、非常に好評であると聞いている。

今年度、来年度採用の新規職員を1名募集した。最初、あまり深く書かずに2ヶ月ハローワークに求人情報を掲載すると、応募がなかったが、次に、健康経営への取組や、有給休暇の取得率が高いといったことを詳しく書くと、10名を超える応募があった。先日、小論文の筆記試験を行ったところ、受験者のほとんどが既卒者だった。新卒者に話を聞くと、平日に試験があれば新卒者は受けやすいが、既卒者は仕事を休んで受けることは難しい。土日に試験があれば、新卒者は余暇やレジャーがあつて、既卒者の方が受けやすいということで、試験日の設定も難しいということを学んだ。

筆記試験では、「山口県が抱える課題についてあなたはどのように考えますか」というテーマで小論文を書いてもらった。県外に出ている大学生、県外出身の大学生の県内就職、今いる従業員の環境を良くする取組を行い、求人情報に記載する、広報ツールを活用した事業PR、高齢の経営者からアルバイトに承継させる仕組みの構築、キャリアコンサルタントを活用した従業員のケア・キャリアプランの作成、障害者や高齢者が働きやすい職場環境の整備など、多くの方が人に関することを書かれており、既存の従業員のことを考えた取組を行い、それを広く広報することで、新たな人材が確保できるのではないかと感じた。

【会長】

賃上げは、生産性の向上が背景になればなかなか難しい。差別化を図ったサービスを行う、高齢化を機会と捉えて事業承継をうまく進めていくことで交渉力を高めていくことが長期的な考えとして必要ではないかと思う。短期的にはI委員からあつたように、設備導入と職場環境の改善をセットで進めていくことがよいと思う。

【D委員】

人手不足、物価高騰に対応するには賃金を上げていかざるを得ない。電気代も高騰しており、蓄電池の導入を検討したが、納品までには時間がかかる。蓄電池の導入に対する補助金があるが、納品までに時間がかかると補助金を活用できないことがある。補助金は非常に便利でありがたく、かなり活用しているが、タイミングがずれると使えないという問題がある。補助対象期間の見直しや追加、何が必要かを精査し、需要の多い補助金の予算を増額するなどしていただきたい。

【C委員】

DX補助金の事例集を作成していただきたい。

また、働きたくても働けない隙間の時間がある方がいて、それを必要とする事業者がある。全国版でタイミーというのがあるが、コネクと22や、シルバー人材センター、商工会議所などで、その防府市版のような顔が見える形のシステムを作れば、有効だと思う。

完全登録制みたいにすれば、自分が働ける時間に働ける仕組みができるのではないか。

【会長】

経済産業省では、在職者のキャリアアップのための転職支援として、キャリア相談、リスキリング、転職までを一体的に支援する制度を設置され実施されているので、活用をご検討いただきたい。

【B委員】

元々インフレは付加価値の向上により物価が上がっていくものだが、現在、物価が上がっているのは原材料の高騰分が上がった感じで、賃金がなかなか上げられないという状況がある。生産性向上に資する取組に対する支援等があるが、補助金があるから使うというものが多く感じる。生産性の向上と併せて賃上げも行う取組を支援するといった攻める補助制度もあつたらよいのではないかと思う。

5 その他

【事務局】

【市長】

～閉会 挨拶～

本日は貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。

第1回目の会議を8月に開催したが、人手不足はより深刻になったということを感じた。

D委員から補助金についてあつたが、市内生産性向上設備等導入緊急支援事業補助金については、普通であれば3月末で終了だが、自事業者の皆さんは新年度で事業計画を立てられるので、それに対応できるよう補正予算計上時に繰越明許費を設定した。ご意見を伺いながら現場に即した補助金となるよう柔軟に対応していきたい。

E委員やF委員から働き方についてあつたが、介護をする人が、介護が終わった時に働けるように、また、高齢者雇用についても検討していきたい。

今後も皆さんの意見をしっかりと参考にさせていただきながら取り組んでいきたい。

【事務局】

以上で、令和5年度第2回中小企業振興会議を終了する。

会議終了 午前11時40分